

旧下田中学校・旧中医学研究所の有効活用提案一覧（公募）

	活用施設	内 容	効 果
提案 1	旧中医学研究所	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の支援ネットワーク構築と地域住民に支援の可視化を図る。また、居場所の機能をもたせることにより、社会参加が不得意な市民の居場所としても機能させる。 <p>【活用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政、教育、労働、福祉など委託事業を含む各分野の支援機関が集う施設。具体的には、福祉事務所、教育研究所、自立相談支援事業所、あったかふれあいセンター、相談支援事業所、作業所、ラポールなど。あと、民間企業の誘致もできればなお良い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動手段がない方のために、デマンドバスのようなものが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援機関が現実的に顔をあわせやすい状況をつくることと、市民が支援機関等を知り、参加する機会につながる。 支援機関が集中することで無駄な支援は減り、効率化が図れる。一方下田にある程度の支援機関が集中するため支援機関が市内にばらけてやるデメリットが減る。 市民が「どこに相談したらいいかわからない」「〇〇に相談したが、〇〇ではないと言われた」というたらい回しが減り、困りごとを拾いやすくなる。
提案 2	体育館	<ul style="list-style-type: none"> スケボー場（ランプ）を常設する。 週末や定期的にバザー会場として使用する。 平日は球技やヨガ教室として開放する。 ドローン教室を開催する。 校舎から体育館までジップラインで繋げる。 可能であれば体育館から四万十川が見えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全天候型のスケボー場により若者が集まる。 バザー会場により集客できる。 開放してスポーツすることで市民が健康になる。 ドローン教室により話題性作りや農作物への農薬散布へ生かす。 ジップラインにより話題性作りや集客ができる。 四万十川が見える展望により集客ができる。
提案 3	体育館 グラウンド	<p>宿毛市、黒潮町にあって四万十市に無い、陸上の練習ができるトラック（レーンは少なくともいいのでタータン）。スポーツ施設。</p>	わからない

<p>提案 4</p>	<p>旧下田中校舎 体育館 グラウンド 旧中医学研究所</p>	<p>校舎・体育館・グラウンドは、避難所として残すのが 1 番いいと思う。その理由として事業を起こすのはなかなか課題が残り難いと思うからです。土地柄・交通の利便性・その土地の年齢層この 3 つが事業を起こすのに必ず壁になってきます。もし仮に事業を起こすとなった場合には四万十市に無い事業を起こさないと厳しいと思う。</p> <p>避難所として活用するにあたって、まず中途半端な箇所(天井・床・壁等々)の仕上げ工事を実施する。これを優先してすべきである。</p> <p>中医学研究所についてはほぼ完成している状態で備品も揃っているため、ここに関しましては、市民の声を聞くのが間違っているかと思う。例として、ラーメン屋出店します！オープン間近です！やっぱり無理でした！そうなれば、責任はその店主となります。ここの中医学研究所に関しては、この短い期間で市民または他県の方に聞くのではなく慎重かつ、丁寧な対応を市が「責任」として話し合わないといけないと思う。</p>	
<p>提案 5</p>	<p>旧中医学研究所</p>	<p>都市部のうつ状態や依存、不眠の症状などのある方に向けた、転地療養（2～3週間くらいの滞在型リトリート施設）として活用してはどうか。</p> <p>私は精神科の病院で仕事をしているが、病院は薬物療法が中心であり、本格的に患者となってしまう前の、病院にかかる前の段階でのサポートの必要性を長らく感じていました。</p> <p>下田は世界的にみてもすばらしい景勝地であると思っ ています。都市部から遠いということはあるますが、それが逆に、隣町へ行くのとは違う、良い効果をもたらすということも考えられます。</p> <p>早起きして朝日を浴び、体を動かす気持ちよさを思い出すくらいの軽い運動をし、個人カウンセリングやグループワーク、瞑想などの心理療法を、下田のような環境で提供できればかなりの効果が見込めると考えています。</p>	<p>例えば企業と連携し、社員の保養、心身の充電として使ってもらえることもできるかもしれません。「うつ」や労働者のメンタル不調が国にもたらしている損害は大きく、その一次予防は、本人はもとより、国としてもとてもやりがいのあることだと思います。うつなどになる方は、繊細でまじめで、回復されればよき労働者となれる方が多いです。四万十市や下田の良さが全国に知ってもらえるきっかけにもなると思われま すし、国民の心身の回復場として機能できれば、経済効果もあり、当方での雇用の創生もできるのではないかと 思います。</p> <p>いまリモートワークがたいへん多くなって、移住のハードルも下がっているので、これまであまり縁がなかった都市部の企業人などが入ってくることは、教育などさまざまな部分で、よい効果があると思うので、もっと下田を知ってもらえるきっかけにもなると思 います。</p>

<p>提案 6</p>	<p>体育館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動教室 (幼児～小学生) (高齢者の健康教室) (個別の運動指導) ※体育館の用具を使用しての体操、運動教室 ※健康な体づくりのためのエクササイズ ・ コミュニティ運営 (運動を通じて) 	<ul style="list-style-type: none"> ①幅広い層への運動指導 (幼児～高齢者) ②教員、体操教室指導者の経験から裏付けされる確かな指導技術 ③休校が増えてきた中で、余っている運動用具 (マットや跳び箱) を再利用できる。 ④幼児からの運動教室による運動能力向上や運動経験者の増加が図られる。 ⑤高齢者の方の健康維持増進 ⑥将来的には、有効活用基本方針 (案) にもあった、子どもから高齢者対象のコミュニティ施設として活用したい。 ⑦イベント (地域文化の促進、地域スポーツ) による他地域からの集客効果
<p>提案 7</p>	<p>旧中医学研究所</p>	<p>施設は高台にあり景色も良く、周辺に公園等の施設もあり立地条件が良いため、プラネタリウムや、子ども達から大人までが集るような娯楽施設を整備してはどうか。</p> <p>また、下田地域には高齢者も多く、市中心地から遠いため、なかなか買い物にいけない。そのため地元の方が歩いてでも買い物にいけるスーパーなどに活用することも良いと思う。</p>	<p>下田地区へ人が集まり、地域に賑わいが生まれ、地域の活性化が図られる。</p> <p>地域にスーパーができることで、買い物弱者対策が図られ、地域の人が地域で暮らしていける環境づくりに繋がる。</p>

<p>提案 8</p>	<p>旧中医学研究所</p>	<p>中医学研究所を再利用しての弊社の植物工場栽培ユニットを活用したイチゴ農園及びイチゴカフェを提案します。</p> <p>https://kisekiplantfactory.com/</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物工場の最先端農業を学ぶ場を子供たちに提供するとともに、収穫したいちごをその場で楽しむことができる。また、障害者の方を雇用し、誰もが心豊かに安心して生活を続けられる社会の構築に貢献する。 <p>【ターゲット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の子供、家族及び観光客。 <p>弊社の方で、工場設計、導入設備レイアウトや運用計画策定、工場竣工後の従業員へのトレーニングまで、植物工場事業に必要な様々な要素を網羅的に提供致します。建設は地元の建設会社が担当し、施設の運営は地元の会社様が担当。</p>	<p>地元の子供、学生たちに植物工場の最先端農業を学ぶ機会を提供することで、今後の新たな農業ビジネスを地元で生まれる機会を創る。経済効果に関しては、地元、県外からの観光客、四万十の宿に来ていた観光客へのアップセルが期待できる。</p> <p>また植物工場は冷暖房の聞いた快適な環境の為、障害者の方も活躍できる仕事を提供できる。</p>
<p>提案 9</p>	<p>旧下田中校舎 グラウンド</p>	<p>旧下田中校舎及びグラウンドを活用し、四万十川流域の米を製粉する米粉工場ならびに米粉製品加工場とその場で食べられるカフェを展開。</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肥料や農薬が高騰している中、米の価格は下落。稲作農家の存続が危ぶまれている。対策として有機肥料と減農薬栽培を行い、生産コストを削減しつつ米粉として活用することで市内業者の新商品開発、農家の所得向上、雇用創出、 	<p>農水省の米粉支援策による農家所得向上。農地の維持・継承。米粉という原料を活用し、四万十市内業者の新商品開発の促進、それに伴いふるさと納税の納税額の向上、有機・減農薬（もしくは無農薬）による稲作技術により四万十川流域の生物多様性の維持・子どもや親への食育の場となる。</p>

		<p>雇用創出、水田維持による防災効果、観光客誘致を行う。</p> <p>【ターゲット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米粉⇒市内加工・飲食業者・スーパーなど。 ・カフェ⇒市民・観光客。 <p>JA 高知県が嶺北で行っている高品質米粉製粉技術「湿式気流粉砕法」を導入し、様々な加工品ができる米粉を提供。四万十市内ではLLP しまんとう・和菓子のおおいし・パンのピノキオが既にこちらの米粉を使用し評価を得ている。</p>	
<p>提案 10</p>	<p>旧下田中校舎 グラウンド</p>	<p>子どもも大人も、好きを伸ばせて、好きでつながれる場所</p> <p>平日昼間は、学校にいきにくい子どもたちに向けたフリースクールのような機能を持たせながら、おとなの集い場（サークル活動など）としても利用できる施設。</p> <p>また、放課後や休日には、年齢にとらわれずに教室ごとにテーマがありその中で好きなことをして過ごせる施設。</p> <p>テーマは現役の子どもたちや、地域の方から募集をして、話し合いながら決めていく。</p> <p>例えば校内ではバンド活動ルーム、ゲームをもとにしたプログラミングルーム、美容関係ルーム、何もしないルーム。グラウンドで泥遊び、とにかく走り回るなど。</p> <p>施設に2つの面を持たせることで、フリースクールの子どもが放課後は好きなことを通して他の子どもやおとなと時間を共有できたり、年配の方が孫のような年齢の子どもと触れ合い元氣になれる場所として活用することを提案します。</p>	<p>四万十市は、海山川などの自然や、温かい人に恵まれた豊かな場所です。それに加えて、このような、日常の過ごし方に選択肢を増やすことで、人生がより充実して楽しいものになることを期待します。</p> <p>この町で育った子どもたちや大人がまたここに戻ってきたいと思うためには、たくさんの楽しい思い出が必要です。そのままでも十分豊かなこの町に「好きを伸ばせて好きでつながれる場所」ができ、さらに、興味のあることをとことんできた、気の合うお友達と過ごせた、自分のことを理解してもらえたなどの体験ができれば、自分自身のことや、自分が過ごした時間・地域を肯定できるような人材が増えると思います。</p> <p>このような人材を増やすことができれば、その人材自身が四万十市のアピール力となり、長い目で見て、この町にとって必要なことを取り込む力となるのではないのでしょうか。</p>

		<p>年齢も性別も家庭環境も関係なく、思いっきり好きなことをしながら学校や世代を超えた交流が生まれ、こどもたち（おとなも）が自分の意志で足を運び、自身で物事を決定していける場所となったらいいなと思います。</p> <p>ただし子どもたちが自主的に足を運べる場所にするためには、立地的な課題があるため、各地区からまちバスのような交通手段を出せないか、また地震等の災害対策の面についても合わせて検討しなければなりません。</p>	
<p>提案 11</p>	<p>旧中医学研究所</p>	<p>宿泊を伴った産前 産後ケアセンターとしての活用</p> <p>【目的】 妊娠中、また、産後の母親の心身の回復や育児に対しての不安感などに併走して支えることを目的とする。 また、支える側の育成拠点としても活用する。 （プラン（案））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊型（ショートステイ）1 回 6000 円 程度 ・ 日帰り型（デイケア）10：00-16：00 1 回 2000 円程度 ・ 訪問型 1 回 2000 円程度 ・ 産後整体ボディケア/運動/家事のスキルアップ講座 等 実費 ※市内・市外は料金差あり <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期の支援 ・ 母親の健康管理や産後の生活のアドバイス ・ 授乳や沐浴の指導 ・ 赤ちゃんの体重管理や沐浴支援 ・ 育児相談や子育て情報の提供 ・ お母さんの休息のサポート ・ 父親に向けた相談支援 等 	<p>【現状と期待】</p> <p>四万十市では出生率の低下が課題となっている。</p> <p>産まれてくる子どもの数を増やすということは、少子高齢化の現代において急務であるが、出生数が少ないという現状は、「今四万十市に産まれてきたすべての子どもとその保護者を把握し、大切に切れ目なく支援をすることが可能である」ということである。</p> <p>四万十市では、同市への転勤、移住、また若年・高齢出産等様々な事情で出産 前後 にサポートを受けにくい環境にある家族もあると聞く。当施設の立地を考えると、サポートを受けにくい環境にある方は、日中に赤ちゃんを連れて1人で外出するには負担感のある距離であることから、宿泊を伴った産前産後センターを今整備することによって、産院を退院した後、そのまま数日このセンターで過ごす仕組みづくりをすることも可能となり、現在、母数は少ないかもしれないが、はじめて母親・父親になった方々の、赤ちゃんと暮らす新しい生活スタイルが始まる前の不安な気持ちに寄り添うことができる。四万十市で子供を産んで育ててよかったという家族が増え、めぐりめぐって同市で出</p>

			<p>産し、子育てをしたいという家族が増えていくきっかけづくりとなることを期待する。</p> <p>【雇用の促進】</p> <p>看護や助産師、福祉の道をこころざした若者が、地元で就職するための雇用の場を増やすことができる。</p> <p>また、同市では、自身の産前産後の経験を活かし、この時期のケアに関わりたいという輪が広がりつつあるが、それを生かせる場が少ないのが現状である。助産師としての資格を生かすために四万十市から転出した人も、このような雇用が生まれればUターンするきっかけになったり、ライフステージの変化に伴って病院勤務は条件が合わなくなりやめていた助産師や看護師がその資格をもって働ける場ともなりうる。</p> <p>さらに、同施設を家事支援・育児支援などについての人材の育成拠点とすることで、産前産後ケアに関わる人材の継続的な確保にもつながるのではないかと考える。</p> <p>【経済効果】</p> <p>産後ケア施設とすることで、産婦の家族が地域に足を運ぶことが増え、近隣施設の利用につながる。</p> <p>また、下田地域は、見晴らしのよい景色がすばらしい地域で、いわゆる都市部とは一味違う「特別感」「リフレッシュ」などもキーワードになりうるが、リゾート地とはまた異なる生活感もあり安心できる場所でもある。</p>
--	--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			<p>これは、産後のお母さんにとって大切な気持ちのリフレッシュや安定に寄与する点であり、このことを広く広報し、幡多地域を中心とした他の自治体とも手を取り合って広めていくことができると予想する。</p>
--	--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------